

Press Release

令和 7 年12月23日
原子力安全対策推進監
電話番号089-912-2352

伊方 3 号機主蒸気配管の空気抜き配管からの水漏れ【C区分】 及びそれに伴う定期事業者検査工程の遅延について

標記の件について、四国電力から異常時通報連絡がありましたので、お知らせします。

また、本日、四国電力から、12/26に延期していた伊方 3 号機
の送電開始が、12/27以降に遅れる旨の連絡がありました。

標記異常はC区分であり、本来であれば1/13に公表するもの
ですが、伊方 3 号機の定期事業者検査工程に影響があるこ
とから、例外的にお知らせするものです。

なお、当該異常によるプラントの安全性及び環境への放射
能の影響はないことを確認しています。

[異常時通報連絡の公表文（様式 1－1）]

伊方 3 号機 主蒸気配管の空気抜き配管からの水漏れについて

R 7.12.23
原子力安全対策推進監
電話番号 089-912-2352

[異常の区分]

国への法律に基づく報告対象事象		有	無
[評価レベル]		－	
県の公表区分		A	B
		C	P P
外部への放射能の放出・漏えい		有	無
[漏えい量]		－	
異常の概要	発生日時	令和 7 年 1 2 月 1 9 日 1 3 時 1 0 分	
	発生場所	1 号・2 号・3 号・共用設備	
		管理区域内	
	種 類	・設備の故障、異常 ・地震、人身事故、その他 ・核物質防護	

[異常の内容]

12 月 19 日(金曜日)13 時 23 分、四国電力株式会社から、別紙のとおり、伊方発電所の異常に係る通報連絡がありました。その概要は、次のとおりです。

- 伊方発電所 3 号機は定期事業者検査中のところ、主蒸気配管とつながっている空気抜きに使用する配管から水が漏れていることを確認した。このため、保修員が現場を確認し、詳細な点検が必要と判断した。
- なお、漏れ箇所の上流にある弁を閉止し、現在、水漏れは停止している。本事象によるプラントへの影響及び環境への放射能の影響はない。
- 今後、詳細を調査する。

[その後の状況]

四国電力株式会社から、その後の状況について、次のとおり連絡がありました。

○第 2 報：12 月 20 日(土曜日)12 時 45 分

- その後、当該配管に約 35mm の亀裂を確認した。このため、当該配管を取り替え、通水確認を行い問題がないことを確認したことから、通常状態に復旧した。
- 今後、詳細を調査する。

県では、原子力センターの職員を伊方発電所に派遣し、現場の状況等を確認しています。

(伊方発電所及び周辺の状況)

[事象発生時の状況]

原子炉の運転状況	1 号機	廃止措置中	
	2 号機	廃止措置中	
	3 号機	運転中（出力 %）・停止中	
発電所の排気筒・放水口モニタ値の状況		通常値	異常値
周辺環境放射線の状況		通常値	異常値

(参考)

1 国への法律に基づく報告対象事象

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律に基づき、国（原子力規制委員会原子力規制庁等）に対し、一定レベル以上の事故・故障等を報告することが義務付けられている。

国への法律に基づく報告対象事象に該当すれば、国際原子力機関が定めた評価尺度に基づき、7から評価対象外までの9段階の評価レベルが示されるので、異常の程度を判断する目安となる。評価対象外以下のものについては、安全に関係しない事象とされている。

2 県の公表区分

区分	内 容
A	○安全協定書第11条第2項第1号から第10号までに掲げる事態 （放射性物質の放出、原子炉の停止、出力抑制を伴う事故・故障、国への報告対象事象 等） ○社会的影響が大きくなるおそれがあると認められる事態 （大きな地震の発生、救急車の出動要請、異常な音の発生 等） ○その他特に重要と認められる事態
B	○管理区域内の設備の異常 ○発電所の運転・管理に関する重要な計器の機能低下、指示値の有意な変化 ○原子炉施設保安規定の運転上の制限が一時的に満足されないとき ○その他重要と認められる事態
C	○ <u>区分A，B以外の事項</u>
P P	○核物質防護に影響がある事態

3 管理区域内・管理区域外

その場所に立ち入る人の被ばく管理等を適切に実施するため、一定レベル（3月間に1.3ミリシーベルト）を超える被ばくの可能性がある区域を法律で管理区域として定めている。原子炉格納容器内や核燃料、使用済燃料の貯蔵場所、放射性物質を含む一次冷却水の流れている系統の範囲、液体、気体、固体状の放射性廃棄物を貯蔵、処理廃棄する場所等が管理区域に該当する。

異常発生 の場所が管理区域の内か外かによって、異常の程度を判断する目安となる。

伊 方 発 電 所 情 報 (お知らせ)

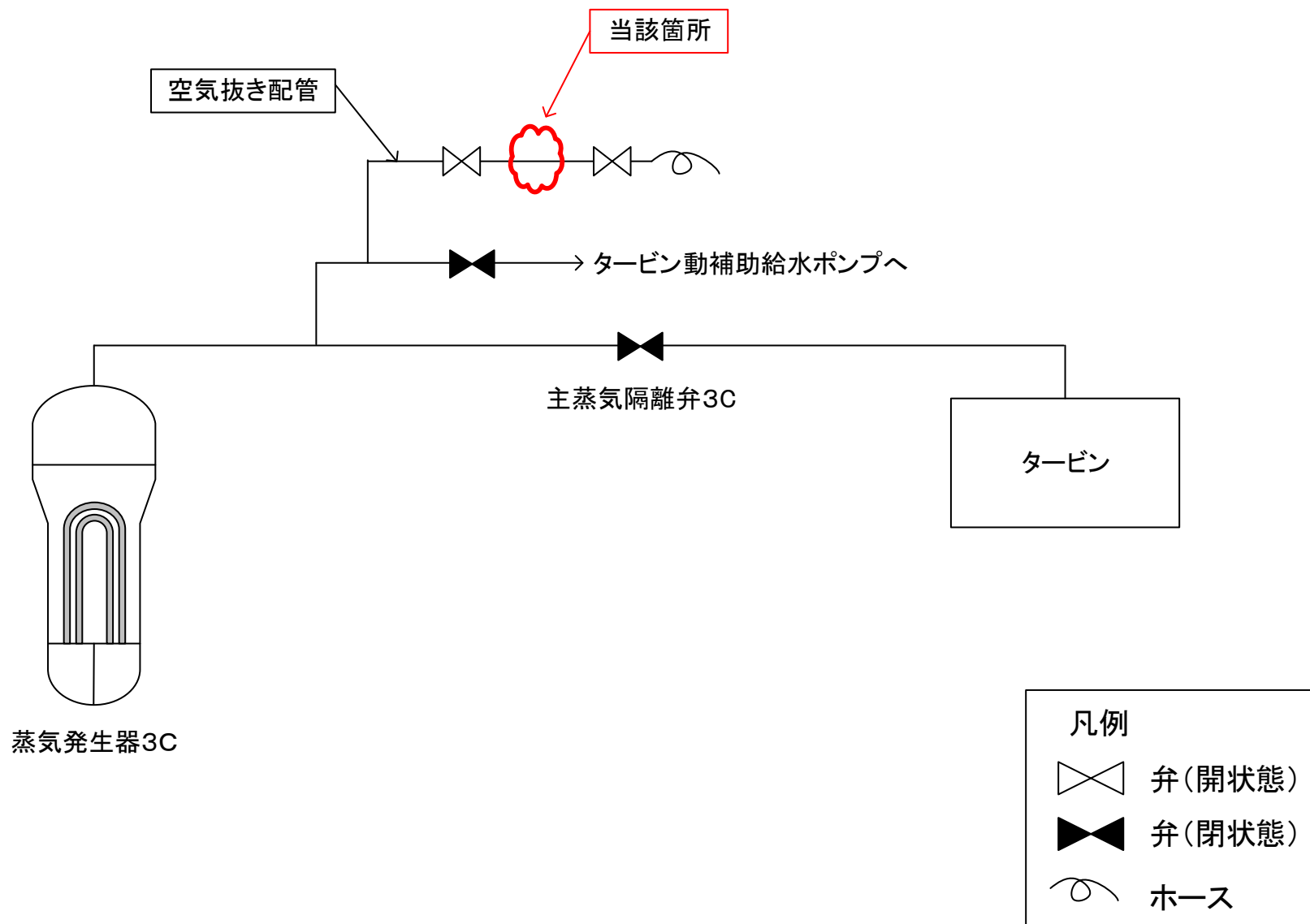
発信年月日		令和 7年 12月 19日 (金) 13時 23分		
発信者		伊方発電所 森田		
当該機	号機 (定格出力)	1号機	2号機	3号機 (890MW)
	発生時 状 況	廃止措置中	廃止措置中	1. 出力——MWにて (通常運転・調整運転・出力上昇・出力降下)中 2. 第18回 定期事業者検査中
発生状況 概 要		<div>設備トラブル</div> ・ 人身事故 ・ 地震 ・ 核物質防護 ・ その他		
		1. 発生日時： 12月 19日 13時 10分 2. 場 所：伊方発電所3号機 原子炉建屋3階（管理区域外） 3. 状 況： 伊方発電所3号機は定期事業者検査中のところ、主蒸気配管とつながっている空気抜きに使用する配管から水が漏れていることを確認しました。このため、保修員が現場を確認し、本日13時10分、詳細な点検が必要と判断しました。 なお、漏れ箇所の上流にある弁を閉止し、現在、水漏れは停止しています。本事象によるプラントへの影響および環境への放射能の影響はありません。 今後、詳細を調査します。		
運転状況		1号機：廃止措置中 2号機：廃止措置中 3号機：（通常運転・調整運転・出力上昇・出力降下・ <div>定検停止</div> ）中		
備 考				

伊 方 発 電 所 情 報

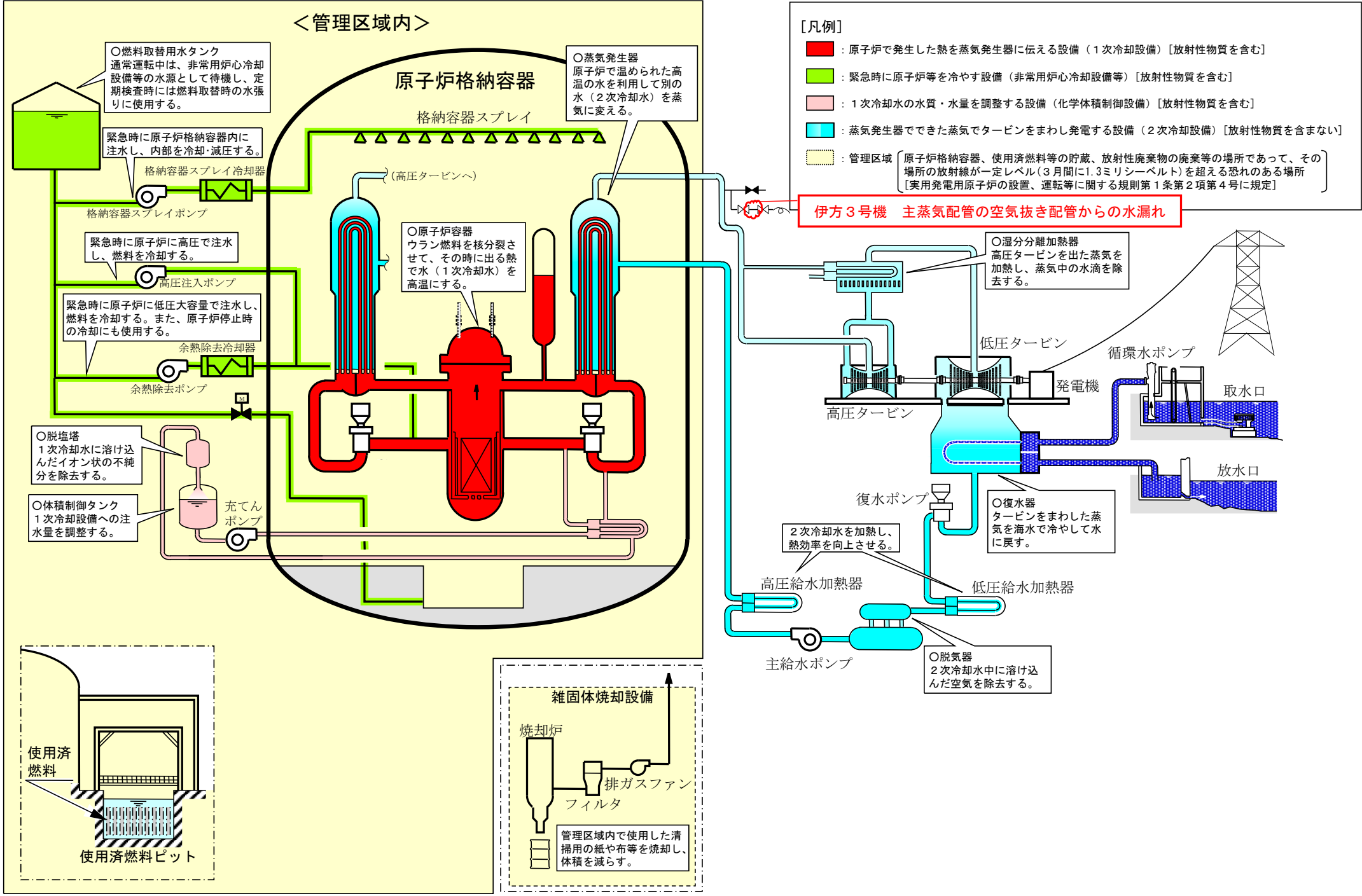
(お知らせ、第2報)

発信年月日		令和 7年 12月 20日 (土) 12時 45分		
発 信 者		伊方発電所 森田		
当 該 機	号 機 (定格出力)	1号機	2号機	3号機 (890MW)
	発生時 状 況	廃止措置中	廃止措置中	1. 出力——MWにて (通常運転・調整運転・出力上昇・出力降下)中 2. 第18回 定期事業者検査中
発 生 状 況 概 要		<div>設備トラブル</div> ・ 人身事故 ・ 地震 ・ 核物質防護 ・ その他		
		<p>1. 発生日時： 12月 19日 13時 10分</p> <p>2. 場 所：伊方発電所3号機 原子炉建屋3階（管理区域外）</p> <p>3. 状 況：</p> <p>伊方発電所3号機は定期事業者検査中のところ、主蒸気配管とつながっている空気抜きに使用する配管から水が漏れていることを確認しました。このため、保修員が現場を確認し、12月19日13時10分、詳細な点検が必要と判断しました。</p> <p>なお、漏れ箇所の上流にある弁を閉止し、現在、水漏れは停止しています。本事象によるプラントへの影響および環境への放射能の影響はありません。</p> <p>今後、詳細を調査します。</p> <p style="text-align: right;">【第1報にてお知らせ済み】</p> <p>その後、当該配管に約35mmの亀裂を確認しました。このため、当該配管を取り替え、通水確認を行い問題がないことを確認したことから、本日12時30分、通常状態に復旧しました。</p> <p>今後、詳細を調査します。</p>		
運転状況		1号機：廃止措置中 2号機：廃止措置中 3号機：（通常運転・調整運転・出力上昇・出力降下・ <div>定検停止</div> ）中		
備 考				

伊方発電所3号機主蒸気配管の空気抜き配管からの水漏れ 概略図



伊方発電所 基本系統図



伊方発電所3号機 主蒸気配管の空気抜き配管からの水漏れ 写真



※ メーカー情報をマスキングしております。

用語解説

○主蒸気配管

蒸気発生器で発生させた蒸気をタービンに送るための配管。

○蒸気発生器

原子炉で加温された１次冷却材とタービンの駆動蒸気となる２次冷却材が伝熱管で熱交換を行い、蒸気を発生させる機器。伊方３号機では３台設置している。

○主蒸気隔離弁

蒸気発生器からタービンへの蒸気の供給を止めるための弁。伊方３号機では蒸気発生器毎に１台ずつ設置しており、計３台設置している。

○タービン動補助給水ポンプ

事故時等に蒸気発生器へ２次系冷却水を給水するためのポンプ。蒸気発生器で発生した蒸気を駆動源としており、伊方３号機では１台設置している。

○タービン

蒸気発生器で発生した蒸気を駆動源として回転することにより、発電機を回して電気を作るための羽根車。

周辺環境放射線調査結果

(県環境放射線テレメータ装置により確認)

令和7年12月19日（金）（単位：ナノグレイ／時）

測定局		測定値（シンチレーション検出器）					平常の変動幅の最大値	
		時刻	12:50	13:00	13:10	13:20	13:30	降雨時
愛媛県	モニタリングステーション（九町越）		19	19	19	19	19	44
	モニタリングポスト伊方越		19	19	19	19	19	53
	モニタリングポスト湊浦		24	24	24	24	24	45
	モニタリングポスト川永田		25	25	25	25	25	50
	モニタリングポスト九町		35	35	35	35	35	55
	モニタリングポスト大成		15	15	15	15	15	40
	モニタリングポスト豊之浦		25	25	25	25	25	51
	モニタリングポスト加周		26	26	26	26	26	58
四国電力(株)	モニタリングステーション		17	17	17	17	17	40
	モニタリングポストNo. 1		18	18	19	18	18	43
	モニタリングポストNo. 2		16	16	16	16	16	42
	モニタリングポストNo. 3		14	14	14	14	14	39
	モニタリングポストNo. 4		16	16	16	16	17	44

(注) 伊方発電所付近に設置しているモニタリングポスト等について記載

○ 降雨の状況：有・~~無~~

○ 伊方発電所の排気筒モニタ等にも異常なかった。

(参考)

- 環境放射線の測定値は、降雨等の気象要因や自然条件の変化等により変動するので、原子力規制庁の「平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料）」に基づき、測定値を「平常の変動幅」と比較して評価しています。
「平常の変動幅」は、過去2年間（令和05、06年度）の測定値を統計処理した幅（平均値±標準偏差の3倍）としており、一般に、測定値が「平常の変動幅」の最大値以下であれば、問題のない測定値と判断されます。
- 環境放射線は線量(グレイ)で表されますが、一般的に、これに0.8を乗じて、人の被ばくの程度を表す線量(シーベルト)に換算しています。
例えば、線量率約20ナノグレイ／時の地点では、1年間に約0.14ミリシーベルト（ミリはナノの100万倍を表す）の自然放射線を受けることとなりますが、これは、胃のX線検診を1回受けた場合の4分の1程度の量です。

(放射線量の例)

